

令和3年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和3年5月22日（土）10:00～11:35

○場所 大磯町保健センター 2階研修室

○出席者 委員5名出席

○事務局 町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 2名

○会議記録

1. 議題

(1) 令和3年度町民活動推進補助金（公募型補助金）事業採択に係る審査

○質疑応答

令和3年度審査事業ナンバー①

◆申請団体：一般社団法人 海鈴大磯

◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業」

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：250,000円

◆質疑

【委員】この資料の中に大磯町との移住定住促進に向けた協力協定締結と書いてあります。補助金も含めて、町の事業とのすみ分けの関係はどのようになっているのでしょうか。

【団体】町の方では、第五次総合計画の前期基本計画にかかっていますが、移住、定住促進の為の窓口をつくっていくとあります。私共はそのサポートをしていきたいということで、昨年11月24日に協力協定を結んでいます。定期的に町の政策課と情報連絡会を設けています。つい最近も、県が主催する移住定住セミナーにどの月に参加しようかと打ち合わせをし、7月と11月に開催される県主催の移住定住セミナーに大磯町として手を挙げ、そのお手伝いを我々が行うことを考えています。

【委員】私の印象ですと、もっと正式な事業でやる方がいいのかなと思うのですが。

【団体】まだ今は、町には予算もついていません。本来は町が行うべきだと思っていますが、第一の段階で、私も微力ながらやっております。

【委員】本年度、大磯お試し移住施設事業開始とあるのは家を用意して何日か貸すということなのかもしれませんが、物件はどう用意しているのでしょうか。

か。

【団体】私の家の母屋が空いておりましたので、リノベーションしてお試しの住宅にしようとして計画しています。今年の春に、鎌倉にあるエンジョイワークスという会社が主催する空き家再生プロデューサー育成研修会に参加して、空き家を使ってもらえるようにするノウハウを勉強しました。その後、エンジョイワークスと一緒に私の母屋をお試し移住施設にするための準備をしているところであります。

【委員】実際、開始した後で、家賃収入はどちらに入りますか。

【団体】今、賃貸収入は一切入っていません。エンジョイワークスさんが投資型クラウドファンディングをやる予定になっています。泊まる方々のお世話は私がします。運営自体は、エンジョイワークスさんの予定で進めています。

【委員】移住に対する課題をどのようにお考えですか。

【団体】昨年9件の問い合わせがありまして、実際に4家族の方々が大磯に来られました。皆さん、大磯の自然や環境、コミュニティに関しては非常に興味を持っていただいています。住んでみたいが買うという決断は難しいので、賃貸の物件を探すときに私たちの目線に沿って賃貸物件を紹介してくれるような不動産屋さんが今まで見つかりませんでした。しかし、つい最近、私どもの意向を理解してくれる不動産屋さんが見つかったので、一歩前進したと思っています。去年の秋から、コロナ禍で実際に来てくれる方々が止まってしまいました。皆さん、来たくても来れないことが今一番の問題です。コロナが収束してから皆さんに声をかけると同時に、ふるさと回帰センターにもまた問い合わせが来ると思っています。

【委員】第4号様式の補助金事業計画書の令和3年度事業の中で、先ほどの移住施設事業以外に対しても補助金を使うということですか。

【団体】主に紹介案内のパンフレット作成や移住セミナーに参加するための交通費、講師への謝礼、フェアに参加するための出展料について使う予定です。

【委員】収支予算の自己資金はどういったものなのでしょうか。

【団体】わたくしのお金です。

【委員】先ほどの経費のところ、「ふるさと回帰フェア」のことを御説明いただきましたが、昨年参加した効果を教えてください。

【団体】 昨年の「ふるさと回帰フェア」はオンラインで参加しました。何人の移住が決まったということではありませんが、我々自身の受け入れ体制が整ったことが効果としてあります。この時は私どもが7名と、町からも政策課の方々が2名参加してくださり、交代で問い合わせに対応しました。私一人でできることではないので、まずは受け入れ体制をとらないといけないと考えています。今回はその体制づくりができました。実際の問い合わせは1人でしたが、そのひと家族はこちらに来られました。

【委員】 先ほど、9件の問い合わせがあったとご説明がありましたが、それは「ふるさと回帰フェア」とは関係ないところでの問い合わせということでしょうか。

【団体】 その中の1件は「ふるさと回帰フェア」から来ていただいた方です。他はふるさと回帰支援センターの窓口からの紹介です。

【委員】 今のお話を聞くと、フェアに出るよりも個別の問い合わせを多く集める方が効率が良いのではないかと思いますがいかがですか。

【団体】 前回、初めてオンラインで行ったので、他の団体も問い合わせがない状態でした。実際に会場に出向いて対応しないと、なかなか人は集まらないと感じています。

【委員】 以前、この補助金事業の中で「大磯だいすき倶楽部」という団体が移住関係のセミナー等をやっていました。よく似ていますが、そことの関係性はどうなっていますか。

【団体】 私がそのクラブを立ち上げて、過去5回、移住の為のフォーラムを行いました。私は今顧問で、代表は次の人に変更してもらいました。引き続き、移住定住に関しては我々と連携して行っていくということで話しています。今の状況ではできませんが、彼らは、昨年大磯市で移住定住のアンケートを取っていました。

【団体】 最初の質問にもあったように本来、移住定住というものは町が主体になって行うのが理想の事業だと思います。町民活動として様々なチャンネルからアクションを起こしていくという段階で、その中の1つとしてとらえていただければと思います。ぜひ町のほうでも大きな動きをしていただきたいという意味合いも持っております。また、団体だけではなく、商工会や観光協会とも連携していくという形になっています。

【委員】 「ふるさと回帰フェア」の参加がメイン事業になるとは思いますが、

参加者をどれくらいと見込んでいるのでしょうか。

【団体】「ふるさと回帰フェア」は毎年2万2千人の方々が集まってきます。その中で、大磯にどれだけ来るかになると思います。昨今、コロナ禍の中でリモートワークが増えてきて、東京から近場に移住される方が急が増えてきています。

令和3年度審査事業ナンバー②

◆申請団体：大磯かるた会

◆事業名称：「百人一首普及事業」

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：85,000円

◆質疑

【委員】大判かるたを製作するとありますが、実際に大判かるたを使用しての大会をオープンスペースにて開催するということですか。

【団体】今年は、200枚の作成を予定しております。

【委員】大きいかるたを取り合う競技をやるということですか。

【団体】そうです。かなり広い会場が必要になりますが、大判かるたを皆で取り合うということになります。

【委員】大きいものがあると、例えば学校の図書館に展示するとか解説を入れるとか、そんなことにも使えるかなと思いました。

【委員】イラストは、人物像の原画があってそれを拡大白黒コピーを等をして絵具を塗って使用しているのですか。

【団体】そうです。小さいかるたを拡大コピーして使用しています。古くなってきているので、丈夫にするための処理や修正もしています。

【委員】原画の著作権の問題は大丈夫ですか。

【団体】かるたの製造販売業者等に問い合わせして、営利に使用しないので問題はないと回答をいただきました。

【委員】そもそも小さいかるたではなく大きいかるたで行うことで、どのような効果があるとお考えでしょうか。

【団体】和風の部屋一面に置いて取るのですが、迫力も凄いいし、取り方も勢いがあって楽しめます。あと、百人一首というのはこんなに美しく綺麗なものなのだということもわかると思います。

【委員】絵と字の美しさもありますし、レクリエーションというかスポーツ

に近いかもしれないですね。

【委員】会員は19名ということですが、お子さん達の人数は何人ぐらいですか。

【団体】小中学生が中心で、私を含めて20名です。

【委員】会員以外の小学生等にも広く参加していただけるとよいと思うのですが、広報とか呼びかけ方とか、町の方とも相談して工夫されるとよいかなと思いました。

【団体】せっかく費用と手間と日数をかけて作る大事な札ですので、皆様が楽しめるような札にしたいと思っています。

【委員】かるた作りは、お子さんも一緒に作成されるのでしょうか。

【団体】そうです。老若男女どなたでも楽しめます。

【委員】今年度大判かるたは、作成だけで使う予定はないという風に見受けられます。本当は単年度事業だから、作ったものをその年度中に活用しないとその事業の効果を評価することはできないのかなと思うのですが、ただ3年間の計画も出されているので、長期的に見て、必ず活用できるということが確認できれば対象になるということによろしいのでしょうか。

【事務局】補助金の制度といたしましては、単年度事業ということではなく、将来ビジョンを持っているということも審査の重要なポイントになっていると御案内しています。

【委員】小学生の募集は、どのように行っていますか。

【団体】各施設に募集のチラシを置かせていただいています。嶋立庵でかるたをする時には、嶋立庵にかかるた以外で見学に来られる方の目にも留まるように看板のようなものを正面に出しております。

【委員】会員にならないと参加できないのですか。

【団体】いつでも会員になれますし、見学だけでもできます。その際に見学だけではなく参加してみませんかと声掛けをしています。

【委員】会員以外の方に参加していただくということがこういう事業には大事な事ですので、ぜひ執行された場合は尽力していただきたいと思えます。

【委員】大判かるたは、何枚ぐらい作られるのですか。

【団体】大判かるたは、今年は200枚の予定としております。

【委員】入門講座や体験会を予定していますが、対象者と、参加人数はどの

くらい見込んでいますか。

【団体】 入門講座は、高麗にある生涯学習館で予定していますが、20名から25名ぐらいかと思います。体験会は、嶋立庵で最高でも20名くらい。

子供から大人まで男女も関係なく、申し込んでいただければと思います。

【委員】 20名も集まるとかなり密になると思われそうですが、コロナ禍の中で対策等は、考えておられますか。

【団体】 手の消毒はもちろんのこと、マスクの着用は必須でお願いします。今、かるたを練習する時には、ビニール手袋をし、四方の窓などは開けて行っています。

【委員】 では、体験会等でも練習と同じ形で密にならないように、また手袋等をしていくということで大丈夫でしょうか。

【団体】 はい。コロナ禍ですので、もし、これからもこの状況が続くようであれば、延期ということもあると思います。

【委員】 自動読み上げ機とあるが、これは必要なものなのでしょうか。

【団体】 かるたの読手には、専任読手、A級公認読手、B級公認読手という資格があります。専任読手という一番トップの先生が機械に入れた音声で、ランダムに流れるものです。きちんとした読み方ですので、子供たちの勉強にもなりますし、声も大きく聞こえますし、私が読むより飛沫の心配が少なくなります。

【委員】 コロナ対策と、正しい、美しい読み方を学習するために必要と理解させていただきます。

【団体】 体験会や入門講座の募集にあたりましては、役場が応援して下さいます。募集をして下さるとの言葉をいただいています。

○評価協議【非公開】

以上